

『ミュゼ Musée』誌 Vol. 122 (2018年12月号) に掲載

アセアン10カ国の「文化財と博物館」の国際ワークショップを カンボジアで3年間にわたり開催

センターの活動が、ミュゼ Musée Vol. 122 (2018年12月号) に取り上げられました。以下、同誌より転載（一部改訂）。

『2018年11月2日から8日にかけて、カンボジアのプノンペン及びシェムリアップで昨年引き続き「アセアン2018文化財と博物館ワークショップ」が開催された。文化庁の文化遺産国際協力拠点交流事業の委託を受けて上智大学が開催したもので、日本を含む11カ国から35人が参加した。上智大学は、石澤良昭教授の主導で「カンボジア人による、カンボジアのための、アンコール遺跡保存修復」を掲げ、1996年にシェムリアップに「アジア人材養成研究センター」を開設し、20年以上にわたってアンコール遺跡の現場で人材育成を行っている。

11月3日には、プノンペン文化芸術省講堂で開会式が行われた。プラク・ソンナラ文化芸術省局長による基調講演があり、石澤教授による歓迎あいさつ、そしてブウン・サッコナー文化芸術大臣によるスピーチが行われ、参加者が自己紹介を行った。午後はプノンペン国立博物館を見学後、基調講演が行われた。翌日は陸路で大プリア・カン遺跡を見学してシェムリアップに移動し、5日目以降はアンコール遺跡のほか、上智大学が発掘したバンテアイ・クデイの石仏が展示されているプリア・ノロドム・シハヌーク・アンコール博物館、アンコール遺跡保存管理所などを見学した。最終日には、参加者全員がカントリー・レポートを発表し、意見交換を行った。』



Musée Vol. 122



プノンペンで行われた開会式後の記念撮影



遺跡を見学する参加者たち



石澤良昭上智大学教授